



公益財団法人 名古屋産業科学研究所
第36回産業科学フォーラム

日時：2019年6月28日（金）14時～15時20分

場所：名古屋大学 VBL棟（4階）セミナールーム

趣旨：地球の温暖化に伴い、豪雨・洪水災害が続発している。大規模自然災害に対してハード整備だけではなくソフトな対応を含めた防災への意識改革が必要である。今回は水防災システムの技術展開や学の役割についての幅広い議論を行いたい。

講演プログラム

挨拶（14:00～14:05） 主催者

講演（14:05～15:20） 辻本哲郎 上席研究員（名古屋大学名誉教授）

講演タイトルおよび要旨

「激甚化する豪雨・洪水に備える治水・水防災」

近年頻発している豪雨・洪水災害の実態を、これまでの治水・水防災システムの体制や技術の面から検証する。

1997年の河川法改正によって、体系化された治水計画にもとづいたハードな洪水防御への進展にも関わらず、豪雨・洪水災害が続発している状況を検証して、治水の課題を抽出するとともに、治水が破綻する状況での水防災の的確な補完が機能しない場面を抽出し、その克服について考察する。

東日本地震・津波災害以降、大規模自然災害に対してハード整備による防災だけでなく、ソフトな対応を含めた減災と迅速な復興（レジリエンス）への意識改革が出てきた。一方、自然現象についての観測体制やそれに基づいた予測技術の発展も期待できる状況で、これらの成果を生かした治水・水防災（ハードとソフト）のシームレス化が期待される。

自然災害に対する強靱な社会という国家的目標に対し、民間技術やさらに住民による自助・共助活動も視野に入れた展開の必要性が認識されてきたところで、これを意識した技術展開や学の役割について考える

キーワード：豪雨・洪水災害、気候変動、治水、水防災、危機管理、災害への社会の脆弱さ

参加費は無料です。参加を希望される方は

公益財団法人 名古屋産業科学研究所・研究部

E-mail: dor@nisri.jp

へご連絡ください

*会場へのアクセス

地下鉄名城線 名古屋大学3番出口 徒歩3分

<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/>

をご参照願います。

